

2020/8/11

柏の景気情報(令和2年7月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(令和2年7月分)

○ 調査期間 : 令和2年7月21日 ~ 令和2年8月3日

○ 調査対象 : 柏市内142事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	142	80	56.3%
建設	36	19	52.8%
製造	36	22	61.1%
卸・小売	42	25	59.5%
サービス	28	14	50.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年7月の業況についての状況】

7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲60.5)となり、マイナス幅が15.5ポイント縮小した。

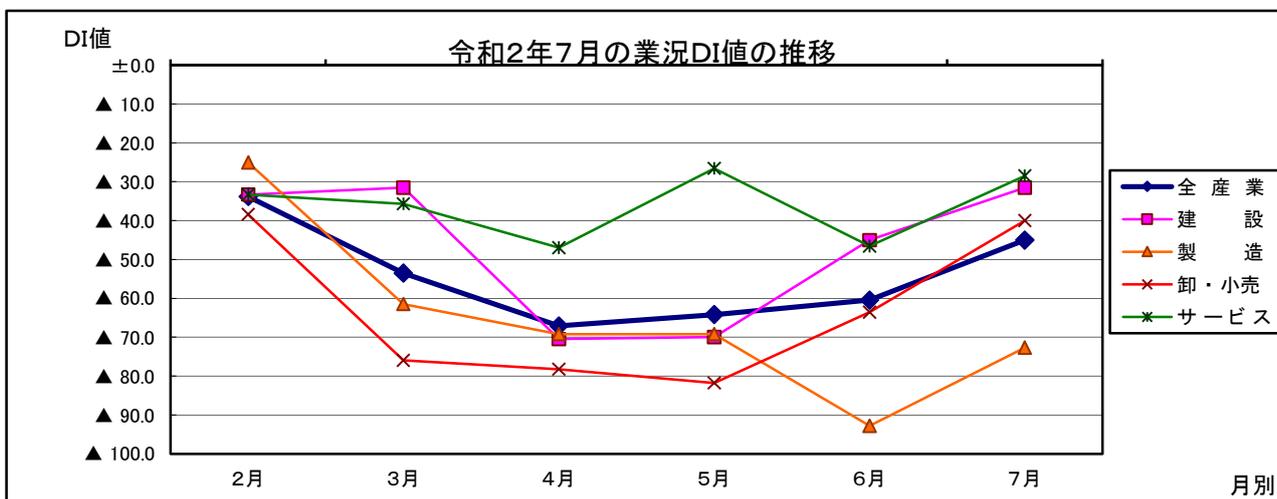
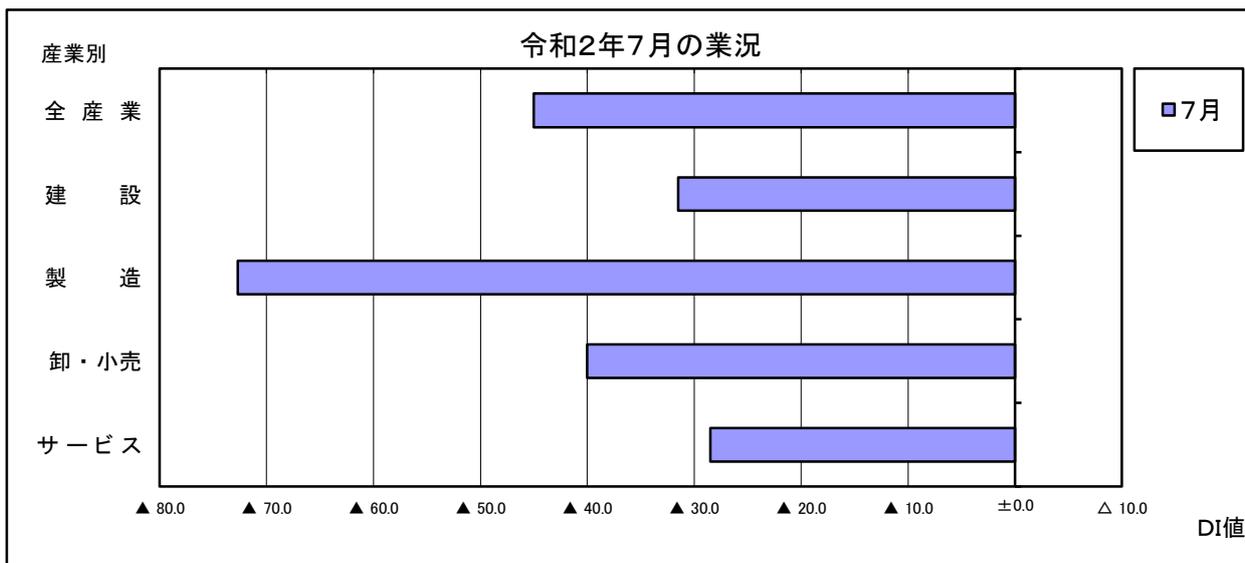
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.0(同▲63.6)、製造業▲72.7(同▲92.8)、サービス業▲28.5(同▲46.6)、建設業▲31.5(同▲45.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.5(前月水準▲42.2)となり、マイナス幅が14.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲46.6)、建設業▲15.7(同▲30.0)、製造業▲36.3(同▲50.0)、卸小売業▲36.0(同▲45.4)である。

令和2年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲33.8	▲53.5	▲67.1	▲64.2	▲60.5	▲45.0	▲27.5(▲42.2)
建設	▲33.3	▲31.5	▲70.5	▲70.0	▲45.0	▲31.5	▲15.7(▲30.0)
製造	▲25.0	▲61.5	▲69.2	▲69.2	▲92.8	▲72.7	▲36.3(▲50.0)
卸・小売	▲38.4	▲76.0	▲78.2	▲81.8	▲63.6	▲40.0	▲36.0(▲45.4)
サービス	▲33.3	▲35.7	▲47.0	▲26.6	▲46.6	▲28.5	▲14.2(▲46.6)



【令和2年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲60.5)となり、マイナス幅が20.5ポイント縮小した。

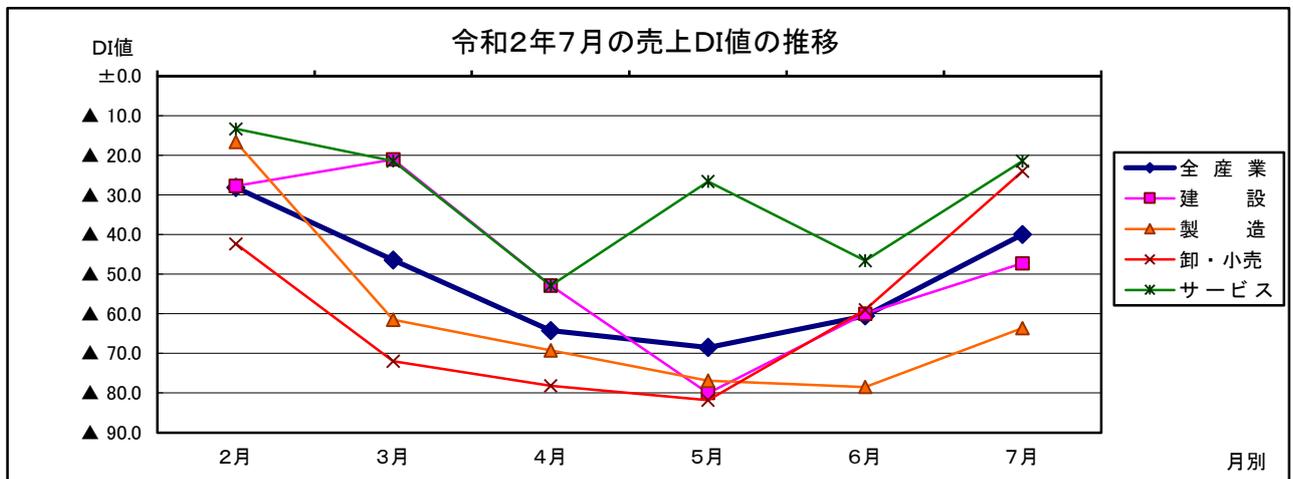
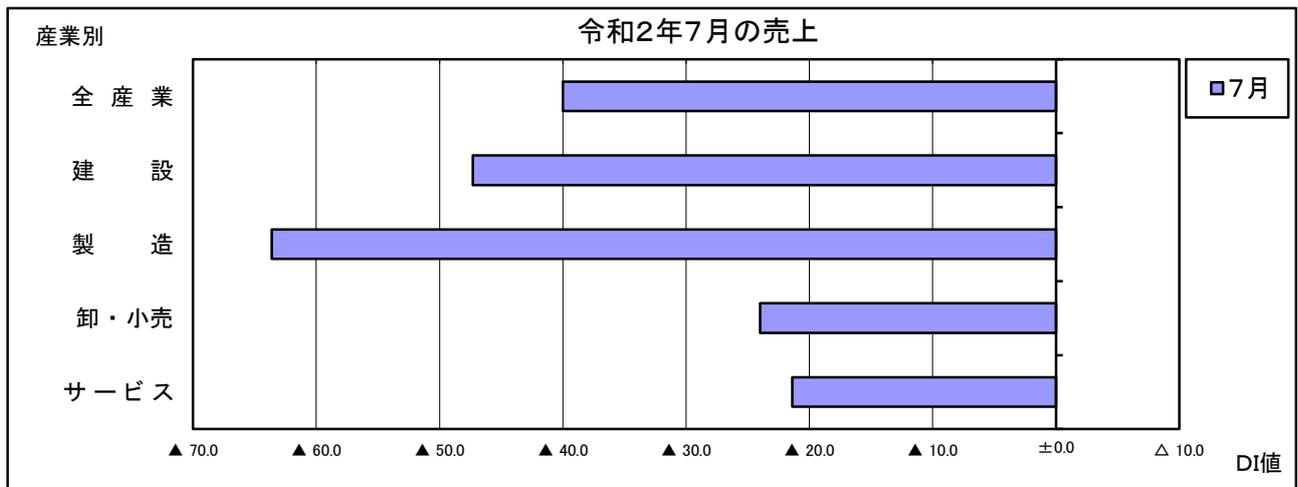
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.0(同▲59.0)、サービス業▲21.4(同▲46.6)、製造業▲63.6(同▲78.5)、建設業▲47.3(同▲60.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.0(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.0(同▲45.4)、サービス業▲21.4(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲35.7)、建設業▲26.3(同▲25.0)である。

令和2年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲28.1	▲46.4	▲64.2	▲68.5	▲60.5	▲40.0	▲35.0(▲33.8)
建設	▲27.7	▲21.0	▲52.9	▲80.0	▲60.0	▲47.3	▲26.3(▲25.0)
製造	▲16.6	▲61.5	▲69.2	▲76.9	▲78.5	▲63.6	▲50.0(▲35.7)
卸・小売	▲42.3	▲72.0	▲78.2	▲81.8	▲59.0	▲24.0	▲36.0(▲45.4)
サービス	▲13.3	▲21.4	▲52.9	▲26.6	▲46.6	▲21.4	▲21.4(▲26.6)



【令和2年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.2(前月水準▲59.1)となり、マイナス幅が12.9ポイント縮小した。

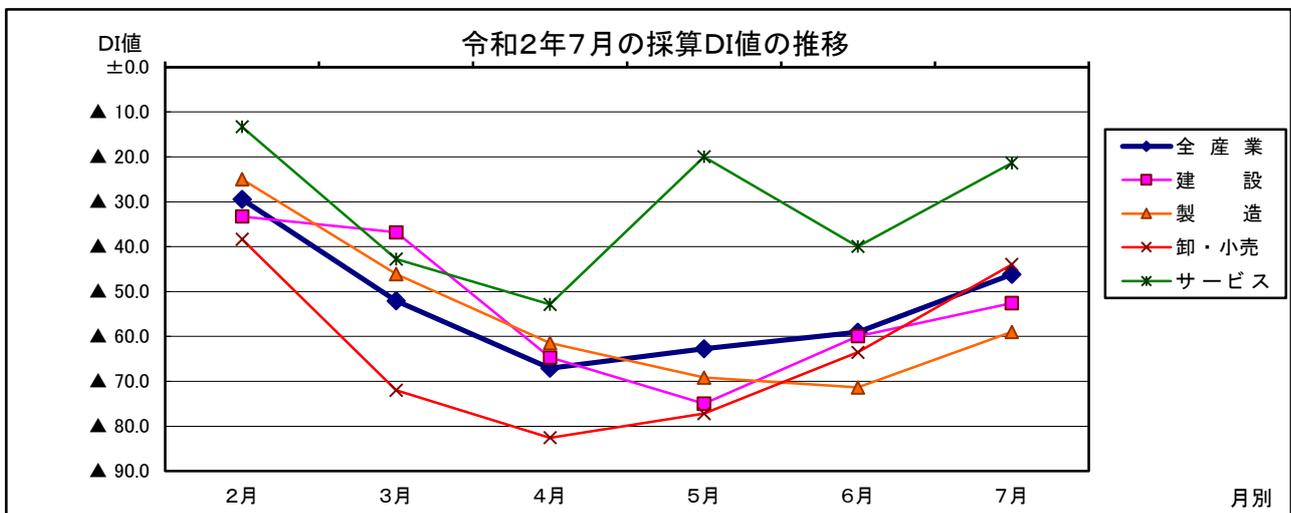
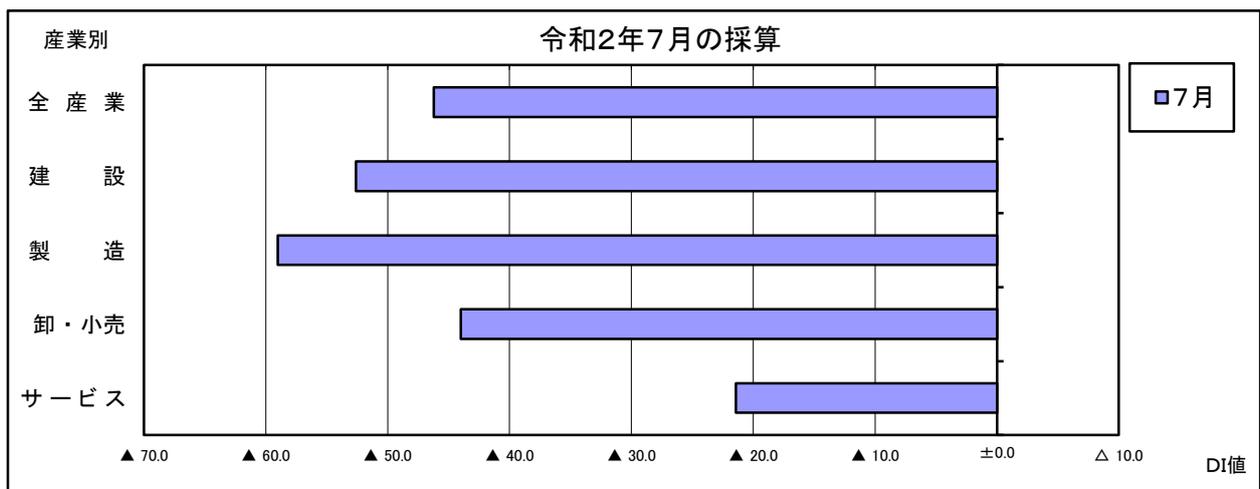
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.0(同▲63.6)、サービス業▲21.4(同▲40.0)、製造業▲59.0(同▲71.4)、建設業▲52.6(同▲60.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.0(前月水準▲39.4)であり、マイナス幅が0.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.0(同▲59.0)、サービス業▲21.4(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲45.4(同▲35.7)、建設業▲36.8(同▲30.0)である。

令和2年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲29.5	▲52.1	▲67.1	▲62.8	▲59.1	▲46.2	▲40.0(▲39.4)
建設	▲33.3	▲36.8	▲64.7	▲75.0	▲60.0	▲52.6	▲36.8(▲30.0)
製造	▲25.0	▲46.1	▲61.5	▲69.2	▲71.4	▲59.0	▲45.4(▲35.7)
卸・小売	▲38.4	▲72.0	▲82.6	▲77.2	▲63.6	▲44.0	▲48.0(▲59.0)
サービス	▲13.3	▲42.8	▲52.9	▲20.0	▲40.0	▲21.4	▲21.4(▲26.6)



【令和2年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16. 2(前月水準▲12. 6)となり、マイナス幅が3. 6ポイント拡大した。

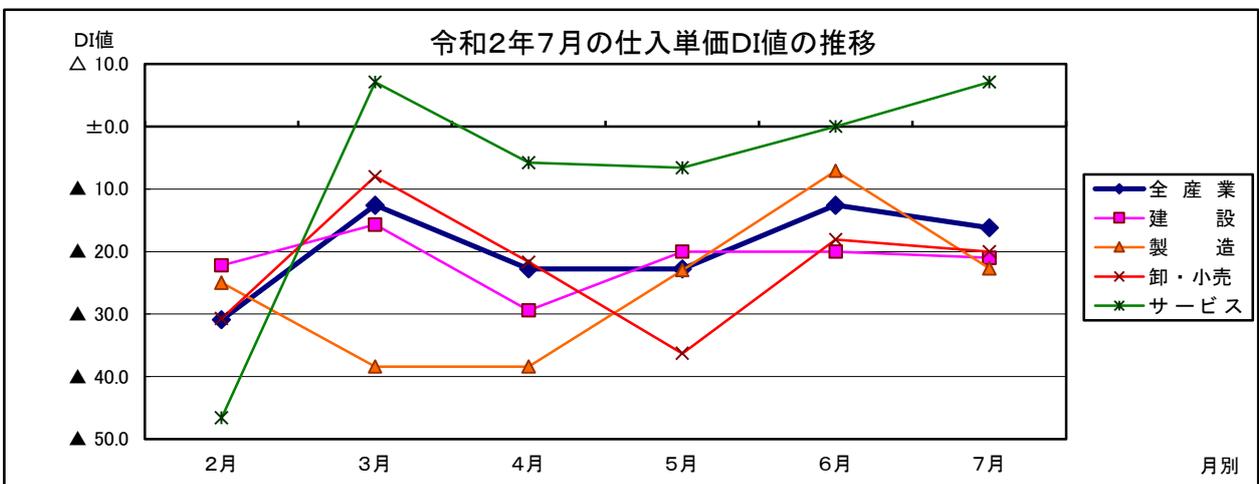
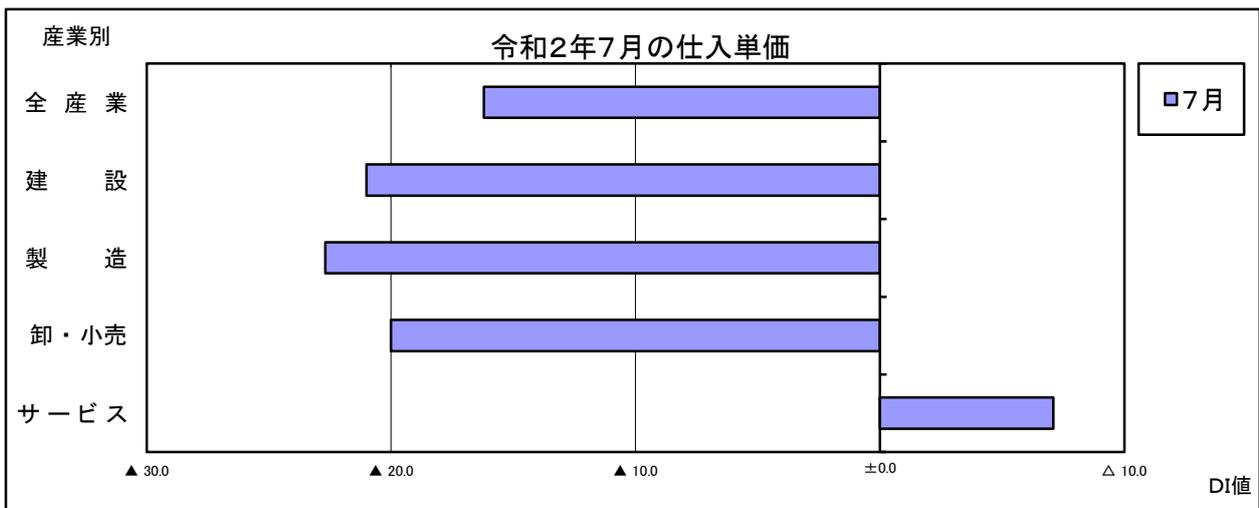
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7. 1(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22. 7(同▲7. 1)、卸小売業▲20. 0(同▲18. 1)、建設業▲21. 0(同▲20. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12. 5(前月水準▲14. 0)となり、マイナス幅が1. 5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△14. 2(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20. 0(同▲31. 8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18. 1(同▲7. 1)、建設業▲15. 7(同▲10. 0)である。

令和2年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲ 30.9	▲ 12.6	▲ 22.8	▲ 22.8	▲ 12.6	▲ 16.2	▲ 12.5 (▲ 14.0)
建設	▲ 22.2	▲ 15.7	▲ 29.4	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 21.0	▲ 15.7 (▲ 10.0)
製造	▲ 25.0	▲ 38.4	▲ 38.4	▲ 23.0	▲ 7.1	▲ 22.7	▲ 18.1 (▲ 7.1)
卸・小売	▲ 30.7	▲ 8.0	▲ 21.7	▲ 36.3	▲ 18.1	▲ 20.0	▲ 20.0 (▲ 31.8)
サービス	▲ 46.6	△ 7.1	▲ 5.8	▲ 6.6	±0.0	△ 7.1	△ 14.2 (±0.0)



【令和2年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△5.0(前月水準△1.4)となり、プラス幅が3.6ポイント拡大した。

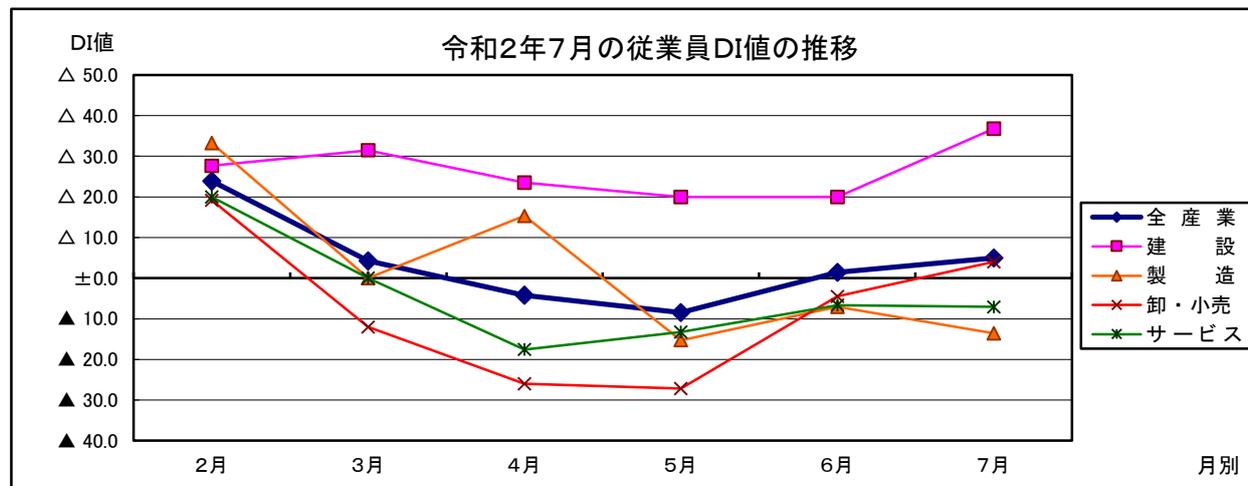
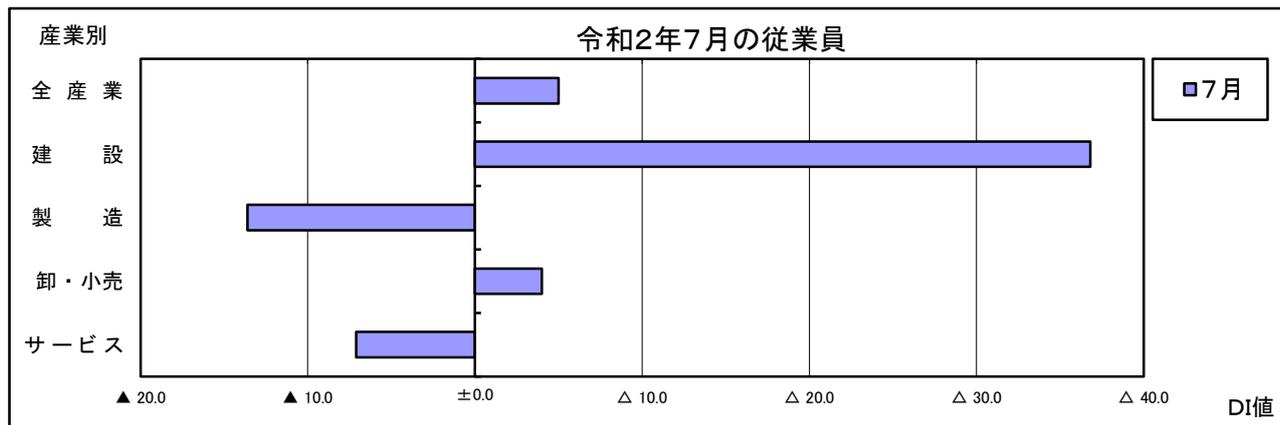
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、建設業△36.8(同△20.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△4.0(同▲4.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲13.6(同▲7.1)、サービス業▲7.1(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△6.2(前月水準±0.0)となり、プラス幅が6.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△36.8(同△15.0)、卸小売業△8.0(同△4.5)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△7.1(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲22.7(同▲21.4)である。

令和2年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	△23.9	△4.2	▲4.2	▲8.5	△1.4	△5.0	△6.2(±0.0)
建設	△27.7	△31.5	△23.5	△20.0	△20.0	△36.8	△36.8(△15.0)
製造	△33.3	±0.0	△15.3	▲15.3	▲7.1	▲13.6	▲22.7(▲21.4)
卸・小売	△19.2	▲12.0	▲26.0	▲27.2	▲4.5	△4.0	△8.0(△4.5)
サービス	△20.0	±0.0	▲17.6	▲13.3	▲6.6	▲7.1	△7.1(▲6.6)



【令和2年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.7(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が10.8ポイント縮小した。

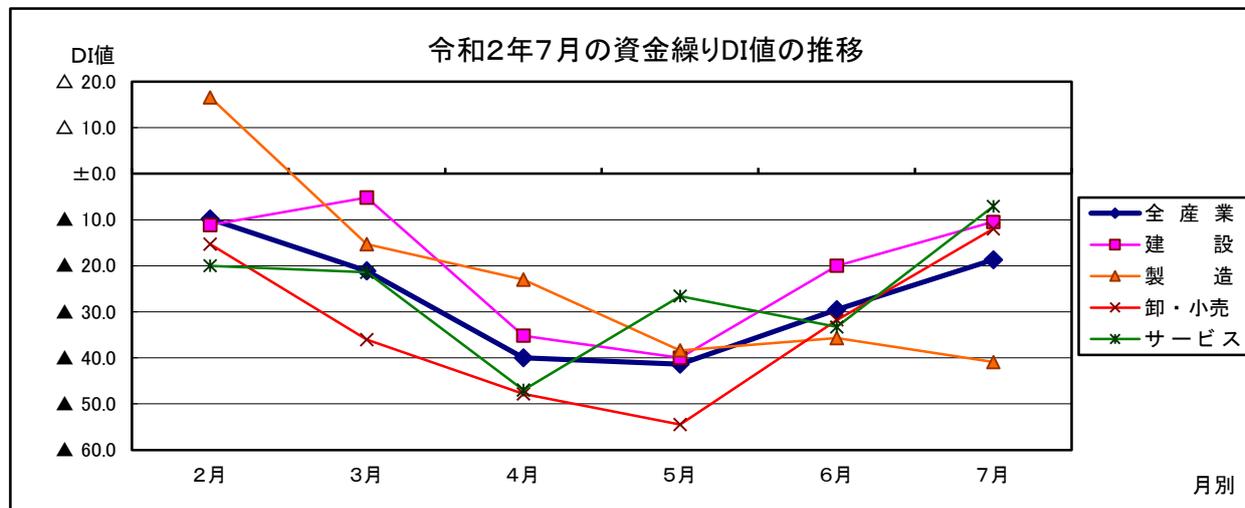
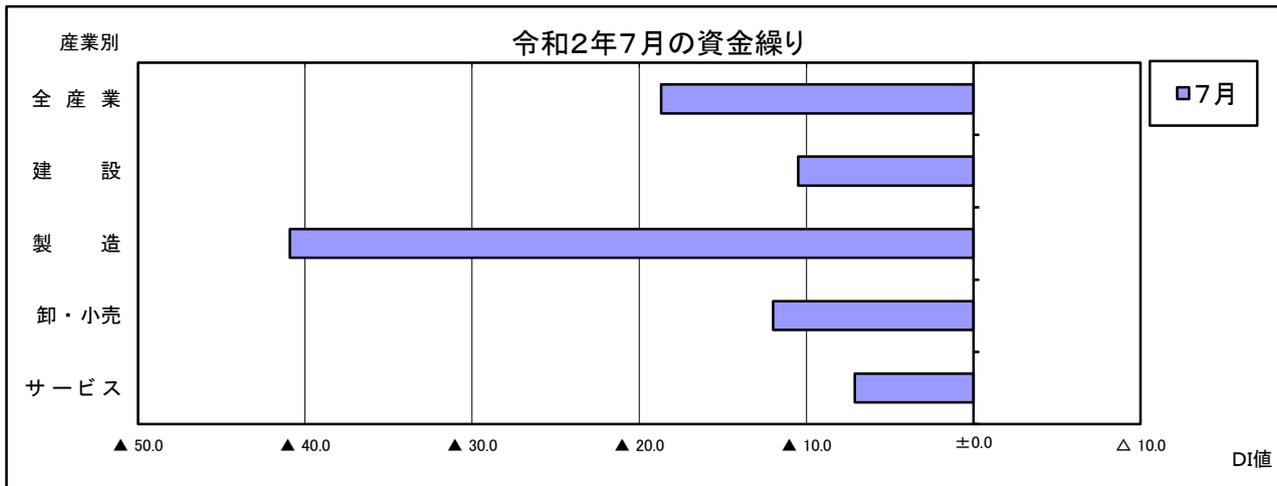
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.1(同▲33.3)、卸小売業▲12.0(同▲31.8)、建設業▲10.5(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲40.9(同▲35.7)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.0(前月水準▲23.9)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲8.0(同▲36.3)、サービス業▲7.1(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲36.3(同▲28.5)、建設業▲5.2(同±0.0)である。

令和2年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲9.8	▲21.1	▲40.0	▲41.4	▲29.5	▲18.7	▲15.0(▲23.9)
建設	▲11.1	▲5.2	▲35.2	▲40.0	▲20.0	▲10.5	▲5.2(±0.0)
製造	△16.6	▲15.3	▲23.0	▲38.4	▲35.7	▲40.9	▲36.3(▲28.5)
卸・小売	▲15.3	▲36.0	▲47.8	▲54.5	▲31.8	▲12.0	▲8.0(▲36.3)
サービス	▲20.0	▲21.4	▲47.0	▲26.6	▲33.3	▲7.1	▲7.1(▲33.3)



【令和2年7月の調査結果のポイント】

《全産業DIは大きく改善。先行きの不安感やわらぐが、感染者数の急増を懸念》

7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲60.5)となり、マイナス幅が15.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.0(同▲63.6)、製造業▲72.7(同▲92.8)、サービス業▲28.5(同▲46.6)、建設業▲31.5(同▲45.0)である。

経済活動再開に伴い、感染者が増加する中、小売業は食料品や消毒関連商品の売上が堅調。公共工事の動きや在宅時間の増加により住宅関連の受注は安定している。新型コロナウイルスの長期化による影響は製造業や飲食業に大きく出ており、飲食業廃業の情報が多い。設備投資の見送り、商談の先送り、広告を出しても反応が薄い、収束しても売上は元に戻らない等の先行きを懸念するコメントが多数寄せられている。

【建設業】からは、「売上は例年通り。今年度は学校関係の仕事がほぼなく受注額が下がると心配したが、他の公共工事を下請けとして受注できた。状況はそれほど悪くない(塗装工事)」、「新型コロナウイルスの一般的な影響は受けているが、先行きの見通しはやや明るい(電気工事)」、「仕入価格上昇により経常利益減少(とび)」、「長雨の影響で畳のカビの問合せ急増(畳工事請負・畳製造販売)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「外食が減少している為、家庭用商品の中でもスライスハムの生産増加。お中元は減少(畜産食料品)」、「ここ3か月間は売上マイナス数%。元に戻るのには1~2年かかると思う(自動車付属品)」、「テレワークの影響で主力製品の需要が大幅減。好転は考えづらい(鉄鋼)」、「輸出・受注が激減している為、客先の生産が減り注文も少ない(金属製品)」、「5~7月は新規の仕事が激減(印刷)」、「化粧品容器の受注に回復傾向が見られない。このままでは資金繰りも悪化しそう(プラスチック加工)」、「コロナ前の水準には景気が戻らないと考え、景気の影響を受けづらい医療・食品分野への進出を検討。商談会、展示会への参加も見込んでいる。また、自社商品や既存事業以外の事業開発も検討(金属製品)」、「親会社の業績が極端に落ち込む中、短中期予想も立てられない状況(金属加工機械)」、「受注減。顧客の在宅ワークの影響で商談の成立が長期化(電子応用装置)」、「設備投資の計画を先延ばしする顧客が多い(一般産業用機械・装置)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「専門店の再契約時に家賃減額の申入れ多数。従業員の外出自粛等、社内取組を強化(百貨店)」、「自粛と猛暑でさらに外出が減りそう。営業日数を減らすことも検討(洋品雑貨・小間物卸小売)」、「衣料品の売上は戻らず。外食自粛の影響か土用の丑のうなぎは非常に好調だった(大型小売店)」、「催事や新聞折込の中止、営業時間短縮による要員効率の向上、家賃の軽減交渉で経費削減に努め、利益・雇用を確保(百貨店)」、「セールを6月に前倒した為、7月の衣料品は大幅減。服飾品は堅調。食料品は前年比増だが飲食は厳しい状況が続く(各種商品小売)」、「戻りつつある」と思ったが、感染者数増加で今後が不安(各種商品小売)」、「販売先の再開・工夫で例年よりプラスだが、販売拠点である市場の来場戦略を確立しないとその分の売上が見込めない。利用客を増やすため思案中(農畜産物・水産物卸)」、「内食商品は好調だが、バーベキュー等イベント向けは落ち込む。お盆や夏休みの帰省自粛の流れで都心部は好調と予想(水産物卸小売)」、「出荷数は変わらないが単価は下落(食料・飲料卸売)」、「お土産は減少傾向だが売上は不変(洋菓子店)」、「大型案件の受注で売上増加。地場小口案件の件数は減り、全体の収益率は減少(建築材料卸)」、「中旬までは対前年比67%だったが、感染者数増加とともに入館者数・売上が伸び悩み、最終的には約62%に(公衆浴場)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「3月以降、新規入会が昨年比8割減。オンライン授業をメインとする動きが必要か(学習塾)」、「戻りつつあった予約数が感染者増で再び減少(日本料理)」、「人手不足が深刻。物流体制に影響(一般貨物自動車運送)」、「テレワーク環境を整備。ITを活用し新しい営業活動を行えるようにしたい(広告代理)」、「テナントを広告に出しても反響ゼロ(不動産代理・仲介)」、「顧客の87%が業績不振で人員過剰。資金に余裕のある企業はアフターコロナを見越した準備に取り掛かっている(広告)」、「固定資産税の減免希望(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
6月	▲60.5	▲45.0	▲92.8	▲63.6	▲46.6
7月	▲45.0	▲31.5	▲72.7	▲40.0	▲28.5
見通し	▲27.5	▲15.7	▲36.3	▲36.0	▲14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 46.2	▲ 40.0	▲ 16.2	▲ 12.5	△ 5.0	△ 6.2
建設	▲ 47.3	▲ 26.3	▲ 52.6	▲ 36.8	▲ 21.0	▲ 15.7	△ 36.8	△ 36.8
製造	▲ 63.6	▲ 50.0	▲ 59.0	▲ 45.4	▲ 22.7	▲ 18.1	▲ 13.6	▲ 22.7
卸・小売	▲ 24.0	▲ 36.0	▲ 44.0	▲ 48.0	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 4.0	△ 8.0
サービス	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 21.4	△ 7.1	△ 14.2	▲ 7.1	△ 7.1

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 45.0	▲ 27.5	▲ 18.7	▲ 15.0
建設	▲ 31.5	▲ 15.7	▲ 10.5	▲ 5.2
製造	▲ 72.7	▲ 36.3	▲ 40.9	▲ 36.3
卸・小売	▲ 40.0	▲ 36.0	▲ 12.0	▲ 8.0
サービス	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 7.1

【令和2年7月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	昨年同月比ではマイナスだが、昨年が過去最高の売上だったため例年通りの売上状況。今年度は学校関係の仕事がほぼなく受注額が下がると心配したが、他の公共工事を下請けとして受注できた。状況はそれほど悪くない。	売上例年並	塗装工事業
	新型コロナウイルスの一般的な影響は受けているが、先行きの見通しはやや明る	先行き見通しやや明るい	電気工事業
	仕入価格上昇により経常利益減少。	仕入価格上昇	とび
	長雨の影響で畳のカビの問合せ急増。目に沿っての乾拭きをおすすめしている。	長梅雨の影響	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	外食が減少している為、家庭用商品の中でもスライスハムの生産増加。お中元は減少。	家庭用商品生産増加 御中元減少	畜産食料品製造業
	新型コロナウイルス対策（テレワーク、時差出勤、来場者の検温・体調の問診等）は引き続き実施。	新型コロナウイルス対策継続実施	織物業
	新型コロナウイルスの社会混乱に慣れ、「この程度なら」という麻痺してきてはいないだろうか。どんな行動をとるのが重要。	新型コロナウイルス	金属製品
	新型コロナウイルスの影響として、この3か月間は売上がマイナス数%で推移。元に戻るには1~2年かかると恐れ、少子高齢化、人口減といった経済全体の縮小も重なり、景気悪化が加速する可能性が高い。	働き方改革	自動車付属品製造業
	テレワークの影響で主力製品の需要が大きく減少。好転する事は考えづらい。	テレワークの影響	その他の鉄鋼業
	新型コロナウイルスによる売上・利益への影響を懸念。	新型コロナウイルス	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルスの影響で輸出・受注が激減しているため、客先の生産も減り注文も少なくなっている。今後も厳しい状況。	輸出・受注減による影響	金属製品製造業
	5~7月は新規の仕事が激減。生き残る為にはどうしたらよいか模索中。	新規案件激減	印刷業
	新型コロナウイルスの影響で化粧品容器の受注に回復傾向が見られない。このままでは資金繰りも悪化しそう。	化粧品容器受注減	プラスチック加工
	新しい販路開拓、事業開発が重要な課題。新型コロナウイルス前の水準には経済が戻らないと考えているため、景気の波に影響を受けづらい医療・食品分野への進出を検討。商談会、展示会への参加を見込んでいる。また、既存の金属加工受託事業以外の事業、自社製品開発を検討。	7割経済 新分野への進出検討 新規事業開発	金属製品
	新型コロナウイルスの影響が心配。親会社の業績が極端に落ち込む中、短中期予想も立てられない状況。	新型コロナウイルス 先行き不透明	金属加工機械製造業
	コロナ禍の影響で受注減。顧客の在宅ワークの影響で商談の成立が長期化。	受注減 在宅ワークの影響	電子応用装置製造業
	設備投資の計画が先延ばしになる顧客が多い。	設備投資先延ばし	一般産業用機械・装置製造業
卸小売業	専門店の再契約で主に家賃減額の申入れが多数。新型コロナウイルス感染症予防の取組における経費が発生。従業員の外出自粛、テレワーク会議等、社内の取組も強化している。	新型コロナウイルス予防経費増 家賃減額の要請多数	百貨店
	新型コロナウイルス感染者数増加に加え、梅雨明けの猛暑でより一層外出する人が減りそう。売上の減少は免れないと思う。営業日数を減らすことも検討しており、業況悪化も考えられる。	新型コロナウイルスの影響 天候の影響 外出自粛	洋品雑貨・小間物小売業
	衣料品の売上が戻らず苦戦の状況は変わらず。暑さ対策や、マスク・消毒関連は好調。土用の丑のうなぎは外食が減っているから非常に好調だった。	衣料品売上不調 防暑、衛生商品好調 外出自粛の影響	大型小売店
	新型コロナウイルスの影響は引き続き大きく、消費停滞で売上動向が元に戻るには長期を要する。売上が減少する中において、催事の中止、新聞折り込みの中止、営業時間短縮による要員効率の向上、家賃の軽減交渉等、可能な限りの経費削減に努め、利益確保、雇用を確保。	経費削減	百貨店
	衣料品は6月にセールを前倒した事で7月は前年比大幅減。バッグ、アクセサリー等の服飾品は堅調。食料品が前年から大きく伸ばしているが、飲食は厳しい状況が継続。	衣料品前年比大幅減 食料品堅調 飲食不調継続	各種商品小売業
	7月は戻りつつある感があったが、感染者数が増加しているため今後に不安。	先行き不透明	各種商品小売業
	駅前店以外の売上は比較的順調。今後の全体的な景気後退がどう出るか。見極めはすごく大切だと感じる。関連会社の飲食店は残念ながら壊滅的な状況。	売上順調	各種食料品小売業
	販売先の再開・工夫により7月売上は例年よりプラスに。しかし、販売拠点である市場の来場者数に売上が依存しており、来場戦略を確立しないとその分の売上が見込めない。市内や駅前の飲食店は市場を利用しなくても仕入可能であるし、地元での仕入にメリットを感じていない小売店もある。利用客を増やす取組みを思案中。	売上増加 市場利用客を増やすための取組	農畜産物・水産物卸売業
	内食の商品は好調だが、バーベキュー等のイベント向けは落ち込んでいる。お盆や夏休みの規制を控える動きが出ている為、都心部は比較的好調だと予想。	内食商品好調 外出自粛の影響	水産物卸・小売業
	10月の酒税増税により仕入価格上昇。出荷数は変わらないが、単価が徐々に落ちている。新型コロナウイルスのおかげで新しい商売を考えなければ	酒税増税	食料・飲料卸売業
	お土産は減少傾向だが、売上は不変。	土産商品減少 売上不変	洋菓子店
	大型案件受注が大きく、売上高は増加傾向。地場小口案件の件数が著しく減少。全体を通して収益率は減少傾向。見通しは安定傾向。	売上増加 小口案件減少	建築材料卸売業
	7月中旬までは対前年比67%になったが、東京、その他大都市の感染者数が増加するに連れて入館者数、売上等も伸び悩み、最終的には約62%で終わった。	新型コロナウイルス感染者増加の影響	公衆浴場業
その他	新型コロナウイルスの影響で、3月からの新規入会者が昨年比8割減。新型コロナウイルス枠の融資を受けた事で当面の心配はなくなったが、業界全体としてオンライン授業を主体にするといった変化が必要なのは。	入会者8割減 オンライン授業	学習塾
	接待や宴会客、昼の年配客が大きく減少している状況は継続。戻りつつあった予約も感染者が急増した事で再びキャンセルに。	新型コロナウイルス感染者急増 予約減少	日本料理
	人手不足が深刻化。物流体制に影響が出ている。	人手不足	一般貨物自動車運送業

【令和2年7月業種別業界内トピックス】

サービス業	既存顧客からの受注は減少傾向。新型コロナウイルス感染者が増えているため、再び自粛が始まると企業は広告予算を削減する可能性も。働き方改革の一環としてテレワーク環境を整えた。休業要請がかかっても営業・制作活動が行えるのはプラス要因となる。資金繰りは公庫からの借入を行い余裕ができた。業界として売上減少傾向のため、ITを活用しながら新しい営業活動を行えるようにしていく。	既存顧客からの受注減少 テレワーク環境の構築	広告代理業
	新型コロナウイルスの影響で多くの顧客が借入・給付金の申請をした。	借入・給付金申請増加	税理士
	テナントを広告に出しても反響ゼロ。兼業のイベント・レンタル業も仕事がない。	テナント募集反響ゼロ	不動産代理業・仲介業
	同業者からの買い取り要請は多い。地価は弱含み。賃貸需要は減少。飲食店の廃業が目立つ。	同業者からの買い取り多数 賃貸需要減少	不動産管理業
	固定資産税の軽減がコロナ禍のキーポイント。	家賃補助・固定資産税軽減	不動産賃貸業
	顧客の87%が業績不振のため人員過剰で、今後の見通しも厳しい。資金繰りに余裕のある企業はアフターコロナを見越した準備に取り掛かっている。	人員過剰 先行き不透明	広告業
住居系賃貸は堅調に推移。商業系の売上は戻ってない。全体として実売上は±0だが、景況感は悪い。	景況観悪化	不動産賃貸・管理業	

令和2年7月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲59.3で柏の方がマイナス幅が14.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲57.1で柏の方がマイナス幅が17.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.2に対し、「CCI-LOBO」が▲56.8で柏の方がマイナス幅が10.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.4で柏の方がマイナス幅が1.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△5.0に対し、「CCI-LOBO」が△0.6で柏の方がプラス幅が4.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.7に対し、「CCI-LOBO」が▲30.7で柏の方がマイナス幅が12.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。変わらない業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

令和2年7月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.0	 ▲ 31.5	 ▲ 72.7	 ▲ 40.0	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 59.3	 ▲ 34.8	 ▲ 70.6	 ▲ 53.4	 ▲ 68.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 40.0	 ▲ 47.3	 ▲ 63.6	 ▲ 24.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 57.1	 ▲ 34.2	 ▲ 68.8	 ▲ 47.7	 ▲ 70.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 46.2	 ▲ 52.6	 ▲ 59.0	 ▲ 44.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 56.8	 ▲ 35.1	 ▲ 66.9	 ▲ 49.5	 ▲ 68.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.2	 ▲ 21.0	 ▲ 22.7	 ▲ 20.0	 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 17.4	 ▲ 27.8	 ▲ 11.9	 ▲ 19.2	 ▲ 14.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 5.0	 36.8	 ▲ 13.6	 4.0	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 0.6	 22.5	 ▲ 14.4	 10.0	 ▲ 4.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 18.7	 ▲ 10.5	 ▲ 40.9	 ▲ 12.0	 ▲ 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 30.7	 ▲ 10.5	 ▲ 36.6	 ▲ 28.3	 ▲ 40.6

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2020年7月14日～20日

調査対象：全国の335商工会議所が2,718企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、持ち直しの動きも、依然厳しい状況。先行きも感染拡大の警戒感強く、慎重な見方続く

7月の全産業合計の業況DIは、▲59.3と、前月から+3.5ポイントの改善。経済活動の再開に伴い、客足が戻り始めた小売業や、公共工事の発注が再開した建設業に下支えされ、持ち直しに向けた動きがみられる。

一方、新型コロナウイルスの感染が東京などの都市部を中心に拡大傾向にあることから、観光関連では依然として低調な動きが続く。製造業でも、一部で生産が再開されつつあるものの、過剰在庫の状況から脱しておらず、弱さが残る。また、各地で発生した豪雨災害による生産・物流の停滞や、日照不足による野菜の高騰などの下押し圧力もあって、中小企業の景況感

は、厳しい状況に変わりはない。回復に力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲53.2(今月比+6.1ポイント)と改善を見込む。国・自治体による国内旅行喚起策の政策効

果や、過剰在庫の解消による生産回復を期待する声が多く聞かれる。一方、東京などの都市部を中心に新型コロナウイルスの感染者が増加していることから、新たな感染拡大や影響の長期化への警戒感が強まっており、新規採用や設備投資を見送る企業もみられるなど、先行きに対して慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「緊急事態宣言の解除以降、元請け会社からの建築工事の発注が順次再開され、足元では、ほぼ例年並みの水準に持ち直している。今後、自治体が予算措置した公共工事が動き始めるため、期待したい」(建築工事業)、「住宅をはじめとした民間工事の動きが鈍い中、足元では堅調な公共工事について

ても、今後、自治体の予算が新型コロナウイルス対策に多く割かれることで、規模の縮小や延期・中止にならないか不安」(一般工事業)

【製造業】「新型コロナウイルスの影響により休業していた取引先の工場が再開。人気車種の投入効果などから、増産体制にシフトしている」(自動車部品製造業)、「新型コロナウイルスの影響が長期化している。特に、例年であれば夏は観光やイベント、お祭りなどによる需要増があるものの、消費者の外出自粛やお祭りの中止などが相次ぎ、引き合いがない」(紙加工品製造業)

【卸売業】「新型コロナウイルスの影響はかなり改善してきているが、日照不足による野菜の生育不良から価格が高騰しており、収益を圧迫している」(食料品卸売業)、「足元では売上は堅調なもの、東京を中心に新型コロナウイルスの感染者が増えていることもあり、影響の長期化が懸念される。新しい生活様式への対応に向け、在宅勤務の制度化など、社内体制の見直しを図りたい」(電気機械器具卸売業)

【小売業】「客足は徐々に戻ってきているが、感染拡大防止のため、例年行ってきた夏のセールや折込チラシなどの販促策が再開できず、苦慮している」(百貨店)、「特別定額給付金の効果や在宅時間の増加による家具の新調・買い替えニーズなどもあり、売上は前年度並みを維持している。ただし、8月以降も新型コロナウイルスの感染が拡大するようであれば、政策効果の剥落もあって、業況は厳しくなると懸念している」(家具小売業)

【サービス業】「個人客が増えてきているが、首都圏で新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、最近では予約キャンセルも発生している」(飲食業)、「新型コロナウイルスの影響により観光需要の低迷が続く、経営は厳しい。今後、県が独自に講じた県内旅行の補助事業や政府によるG.O.Tトラベルキャンペーンを期待したい」(旅行業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲32.6	▲13.0	▲41.5	▲37.5	▲39.5	▲28.6
3月	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲53.1	▲58.9	▲55.8
4月	▲60.4	▲29.3	▲63.2	▲66.7	▲64.0	▲71.2
5月	▲65.8	▲37.7	▲69.9	▲62.9	▲70.0	▲77.6
6月	▲62.8	▲35.0	▲72.6	▲61.6	▲60.4	▲73.4
7月	▲59.3	▲34.8	▲70.6	▲59.5	▲53.4	▲68.4
見通し	▲53.2	▲36.8	▲57.9	▲53.2	▲55.3	▲57.3

柏の景気情報 (令和2年7月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

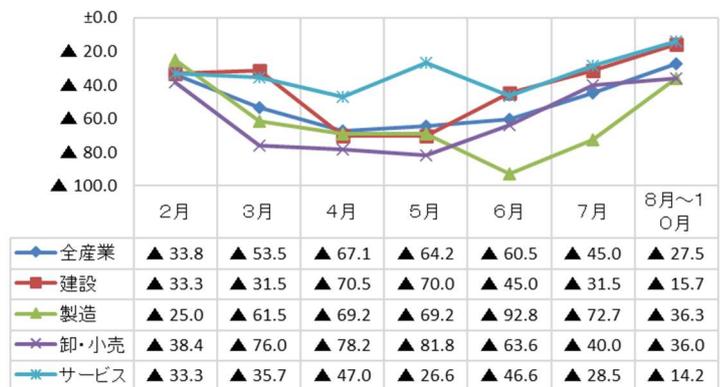
調査期間：令和2年7月21日～8月3日 調査対象：柏市内142事業所及び組合にヒアリング、回答数81件

全産業DIは大きく改善。先行きの不安感やわらぐが、感染者数の急増を懸念

7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲60.5)となり、マイナス幅が15.5ポイント縮小、3か月連続で改善した。

経済活動再開に伴い、感染者が増加する中、小売業は食品や消毒関連商品の売上が堅調。公共工事の動きや在宅時間の増加により住宅関連の受注は安定している。新型コロナウイルスの長期化による影響は製造業や飲食業に大きく出ており、飲食業廃業の情報が多い。設備投資の見送り、商談の先送り、広告を出しても反応が薄い、収束しても売上は元に戻らない等の先行きを懸念するコメントが多数寄せられている。

柏の景気情報・産業DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化

建設業

「売上は例年通り。今年度は学校関係の仕事がほぼなく受注額が下がると心配したが、他の公共工事を下請けとして受注できた。状況はそれほど悪くない(塗装工事)」、「新型コロナウイルスの一般的な影響は受けているが、先行きの見通しはやや明るい(電気工事)」、「仕入価格上昇により経常利益減少(とび)」、「長雨の影響で畳のカビの問合せ急増(畳工事請負・畳製造販売)」

製造業

「外食が減少している為、家庭用商品の中でもスライスハムの生産増加。お中元は減少(畜産食料品)」、「ここ3か月間は売上マイナス数%。元に戻るのには1～2年かかると思う(自動車付属品)」、「テレワークの影響で主力製品の需要が大幅減。好転は考えづらい(鉄鋼)」、「輸出・受注が激減している為、客先の生産が減り注文も少ない(金属製品)」、「5～7月は新規の仕事が激減(印刷)」、「化粧品容器の受注に回復傾向が見られない。このままでは資金繰りも悪化しそう(プラスチック加工)」、「コロナ前の水準には景気が戻らないと考え、景気の影響を受けづらい医療・食品分野への進出を検討。商談会、展示会への参加も見込んでいる。また、自社商品や既存事業以外の事業開発も検討(金属製品)」、「親会社の業績が極端に落ち込む中、短中期予想も立てられない状況(金属加工機械)」、「受注減。顧客の在宅ワークの影響で商談の成立が長期化(電子応用装置)」、「設備投資の計画を先延ばしする顧客が多い(一般産業用機械・装置)」

卸・小売業

「専門店の再契約時に家賃減額の申入れ多数。従業員の外出自粛等、社内取組を強化(百貨店)」、「自粛と猛暑でさらに外出が減りそう。営業日数を減らすことも検討(洋品雑貨・小間物卸小売)」、「衣料品の売上は戻らず。外食自粛の影響か土用の丑のうなぎは非常に好調だった(大型小売店)」、「催事や新聞折込の中止、営業時間短縮による要員効率の向上、家賃の軽減交渉で経費削減に努め、利益・雇用を確保(百貨店)」、「セールを6月に前倒しした為、7月の衣料品は大幅減。服飾品は堅調。食料品は前年比増だが飲食は厳しい状況が続く(各種商品小売)」、「戻りつつある」と思ったが、感染者数増加で今後が不安(各種商品小売)」、「販売先の再開・工夫で例年よりプラスだが、販売拠点である市場の来場戦略を確立しないとその分の売上が見込めない。利用客を増やすため思案中(農畜産物・水産物卸)」、「内食商品は好調だが、バーベキュー等イベント向けは落ち込む。お盆や夏休みの帰省自粛の流れで都心部は好調と予想(水産物卸小売)」、「出荷数は変わらないが単価は下落(食料・飲料卸売)」、「お土産は減少傾向だが売上は不変(洋菓子店)」、「大型案件の受注で売上増加。地場小口案件の件数は減り、全体の収益率は減少(建築材料卸)」、「中旬までは対前年比67%だったが、感染者数増加とともに入館者数・売上が伸び悩み、最終的には約62%に(公衆浴場)」

サービス業

「3月以降、新規入会が昨年比8割減。オンライン授業をメインとする動きが必要か(学習塾)」、「戻りつつあった予約数が感染者増で再び減少(日本料理)」、「人手不足が深刻。物流体制に影響(一般貨物自動車運送)」、「テレワーク環境を整備。ITを活用し新しい営業活動を行えるようにしたい(広告代理)」、「テナントを広告に出しても反響ゼロ(不動産代理・仲介)」、「顧客の87%が業績不振で人員過剰。資金に余裕のある企業はアフターコロナを見越した準備に取り掛かっている(広告)」、「固定資産税の減免希望(不動産賃貸業)」

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲59.3で柏の方がマイナス幅が14.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。